

大網ロータリークラブ

Club Weekly Bulletin

■クラブ創立：2000年1月13日
 ■例会日：毎週水曜日（12：30～13：30）
 ■例会場：中部コミュニティセンター TEL0475-73-3337 FAX73-4360
 ■事務所：〒299-3251 大網白里町大網450-6 ユアサビル2階 TEL0475-70-0200
 ■会長：宮間 文夫 幹事：大越 将司
 ■広報・公共イメージ向上委員会 委員長 石田 英世 副委員長 小高 徹



2018年9月19日(水)

第20巻 第11号

通巻第871

<http://www.oamirotary.com>
 E-mail rc@oamirotary.com

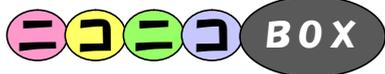


インスピレーションになるう

情報研修会

開会点鐘 ソング 高山ガバナー補佐 奉仕の理想 斉唱

プレゼンターター
 地区国際奉仕委員会
 委員長 高橋 潤一 様
 『わかりやすいロータリー』
 ～職業奉仕を再考す～



なし

例会日	9月12日	8月29日
会員数	31	31
出席	16	20
欠席	15	11
MU	0	1
免除	2	2
出席率	58.06	74.19

会長挨拶

宮間会長所用の為、堀本直前会長代読



皆さん、こんにちは！ いかがお過ごしでしょうか？
 私は先日、財団セミナーに参加させて頂きました。
 高山ガバナー補佐、四之宮ロータリー財団委員長もいらっし
 やいました。その際、長い間の念願が叶って、成田ロータリ
 ークラブ、ガバナーエレクトの諸岡靖彦さんとお話する事
 が出来ました。四之宮会員もそばにいてくれました。
 私は学校を卒業して直ぐ、家業の水産仲卸業を継ぎました。
 20才代の自分が千葉市中央卸売市場のオープンと共に、有限

会社山利商店の社長となり、店を運営していく事になりました。その頃、「高く仕入れて、安く売
 りなさい！」という教えを守って、商売をしていました。普通、安く仕入れて、高く売らなければなら
 ないと思いますが、問屋を泣かさずに仕入れて、お客様に喜んで買ってもらって、自分は、少々の利
 益で商いをさせていただくという教えに共感できたお陰で、築地から出店してきた会社が撤退する中、
 今でも山利商店は、多くの社員と共に、弟が社長となり商売させていただいております。
 諸岡ガバナーエレクトが代表取締役を務める米屋株式会社の創業者がこの精神で商いをした方だと
 後で知り、ロータリアンになってから、いつかは米屋の社長がガバナーになると聞いていたので、お
 会いたいと思っていたのです。

さて、本日は、内山いつ様「伊能忠敬」後編の卓話をさせていただけるという事で、よろしくお願
 います。それでは会員の皆様におかれましては、ご自愛下さいますよう祈念申し上げ、会長挨拶とい
 たします。ありがとうございました。

卓話

九十九里郷土研究会 内山 いつ 様



郷土が生んだ科学の先駆者 伊能忠敬翁の生涯を思う (2)

忠敬翁没後 200 年の今年、忠敬より数えて七代目に当るご子孫、伊能洋氏とお会いし、「伊能忠敬関
 係文書目録」世田谷伊能家伝存、及び平凡社刊の別冊太陽「伊能忠敬」没 200 年を恵送されました。
 その内容の一部に触れさせていただきます。

☆伊能七家

戦国時代の終りに大和から佐原に移住した伊能一族で、忠敬は伊能三郎右衛門家で初代景久より 10
 代目になります。外に（茂佐衛門家、七左衛門家、平右衛門家、彦作家、権之承家、代作家）で村の
 有力者でありました。

幹事報告

大越幹事より



ガバナー事務所より

①地区大会2日目プログラム参加に 対する協力依頼

本年度は2日目のプログラムが大幅に変わっております。基調講演を午前中に行い、地区大会決議の発表などは午後に行います。

例年、午前中のプログラムが終了するとバスでお帰りになるクラブさんも多くみられます。遠方からの参加とは存じますが、年に一度の大会ですので最後までご臨席頂きますよう、ご協力をお願い致します。

②RMCC2790(二輪同好会)ツーリングの ご案内

地区幹事長 野池 尚美 様

二輪同好会が発足をして早4年目を迎えました。本年橋岡ガバナー年度も秋晴れの中、紅葉を見ながらの二輪車ツーリングを開催致したく、下記の通り「第1回二輪車ツーリング」を企画致しましたので、ご案内申し上げます。

尚、二輪車に興味をお持ちの会員、又はこれから乗ってみようと思う会員のご参加も歓迎致します。

記

○開催日 平成30年11月11日(日)
AM9:00(集合)~PM3:30頃(解散) ※雨天時中止。

○集合場所 館山自動車道〔市原SA、AM9:00 集合9:30出発〕

○行先 上総方面(養老溪谷)

○参加対象 地区83クラブ(二輪車の趣味をお持ちの会員並びに興味のある会員)

※オートバイは、車種・サイドカー・三輪車等特定を致しません。

但し、高速道路を使用する為、250CC以上と致します。

○登録料 当日の参加者により現地負担。

※高速代・ガソリン代等は自己負担

○申込:参加ご希望の方は事務局椎名迄

「合議講」を作り、各家の家政悪化に備えて、田畑を出し合って相互扶助を行っています。

☆忠敬は46才の時に家訓を書いています。

第一、「仮にも偽をせず孝弟忠信にして正直たるべし。」

第二、「身の上の人ハ勿論、身下の人にて教訓異見あらば急度(きつと)相用、堅く守るべし」

第三、「篤敬謙譲として言語進退を寛裕ニ諸事謙り敬ミ少も人と争論など成りべからず。」

の三箇条からなっております。

即ち、嘘偽りを言うな。良い意見は目下の者でも取り入れろ、謙譲にし喧嘩をするな。というのが忠敬の信条であった。曲ったことの嫌いな実直な人であったようです。

☆生活者としての実像の断片

忠敬の書簡は多数残されているが、その多くは娘の稲(妙薫)にあてて、書かれている。稲は若い頃に故あって勘当されたが、文化7年(1810)忠孝65才のとき剃髪し、改名して実家に戻り、以後は父に尽くして、至孝の堅尼と称された。佐原の留守宅を守り測量とは無関係の話題など多種多様の事柄が語られています。

(書簡1.)「私は親の命令で佐原に養子に行き、好きな学問もやめて、事業第一に励み、伊能家の家訓を守って救民も行った。功成り名遂げて引退するのが自然の道理と江戸へ隠居したところ、本邦初の日本全国測量を拝命、諸大名のお力添えを得て、国々を巡り歩いたことは、まことに有難く、これぞ実に天命といおうか、先祖の御礼徳といおうか、言葉では表しがたいことである。」

(書簡2.)「私が天文暦学を好むのも、召し出されて全国測量をするのも、後世に名誉を残す所存では一切ない。自然天命であるというものである。」

☆忠敬の長女稲について

忠敬が佐原の伊能家に入って翌年宝暦13年(1763)長女稲が生まれた。

この年、先夫のひと粒種(忠敬)が7才で夭折してしまった、妻のミチは涙に咽んだそうです。夫忠敬には耐えがたいことでした。妻の悲嘆を慰めるべく忠孝の身替りに、山辺郡片貝村、布留川弥右衛門の子で尚寛惣兵衛の甥である盛右衛門を養子として迎えることにした。盛右衛門8才の時である。後にこの二人は恋仲になり、夫婦になるが、父忠敬は二人を勘当する。

血はつながっていないが兄と妹、世間体もあり、父は激怒する。これには飯高惣兵衛がこんこんと説明した書簡「直言状」が残っています。

要点(二人の間の子供は貴方の孫ですよ、孫が可愛いと思わないですか、その孫を父なし児にしてしまうのか。と強く意見をした「飯高家文書」があります。)

勘当された二人は故郷、片貝村屋形に帰り、加納屋と称し、米屋を営業する。夫、盛右衛門54才にて没後、佐原へ帰り、父の仕事など協力する晩年となる。特に甥の忠誨(忠敬の孫)が幼少(7才)の頃、両親に先立たれ、養育する。忠誨は祖父の測量隊として活躍したひとりでした。

文政4年(1821)幕府天文方、高橋景保(至時の長男)1785~1829が忠敬の孫の忠誨(1806~27)を伴い登城して「大日本沿海輿地全図」を幕府に提出されました。(忠敬の仕事の集大成)しかし忠敬は全国測量終了後、地図御用所で地図の仕立てにかかったが、身体の衰えが進み、文政元年(1818)4月13日、日本橋亀島町の自宅で地図の完成を見ることなく死去しました。地図仕上りの日まで3年間、忠敬の死は伏せられていました。忠敬肖像画を世に出した忠誨の祖父への情愛の深さが忍べれます。

☆姻戚 伊能茂左衛門家より養子景文を迎える

孫忠誨に子供が居なかったため、伊能七家の茂左衛門家から景文が四代目を継いだ、五代目孝、六代目康之助(洋氏の父)とつながりました。

忠敬の膨大な遺品が欠けることなく守られたのは偏に孝さんの強い意志と遺品、旧宅を現在まで守られた厩代のご子孫に頭が下がります。

☆終りに。忠敬翁に一層の親しみと敬意をささげながら・・・

彼の生涯を思いますと、何学心で和算、天文暦学、測量技術を取得し、それと頑健でなく持病をかかえながら、根気、好奇心で、すべて地図の精度を高める努力の人と言えましょう。

少年時代の夢を保ち続け、真実を追究することに真摯な姿勢、更に愚直なまでの生きざまに対し、多くの方々の協力がありました。師にも、友人にも、後援者にも恵まれた人間であったからこそ、偉大な成果を得た人であったと思います。